

中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(180企業)をまとめた

建設業

発行・長崎県商工会連合会
長崎市桜町4-1
長崎商工会館8階
問い合わせ先 TEL 095(824)5413

〔主要景況項目の動向〕

期 主要項目	2019年 10月～12月	2020年 1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	2021年 1月～3月 (見通し)
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						

晴 D・I 50.1～100

晴時々曇 D・I 20.1～50

曇 D・I 20～△20

曇時々雨 D・I △20.1～△50

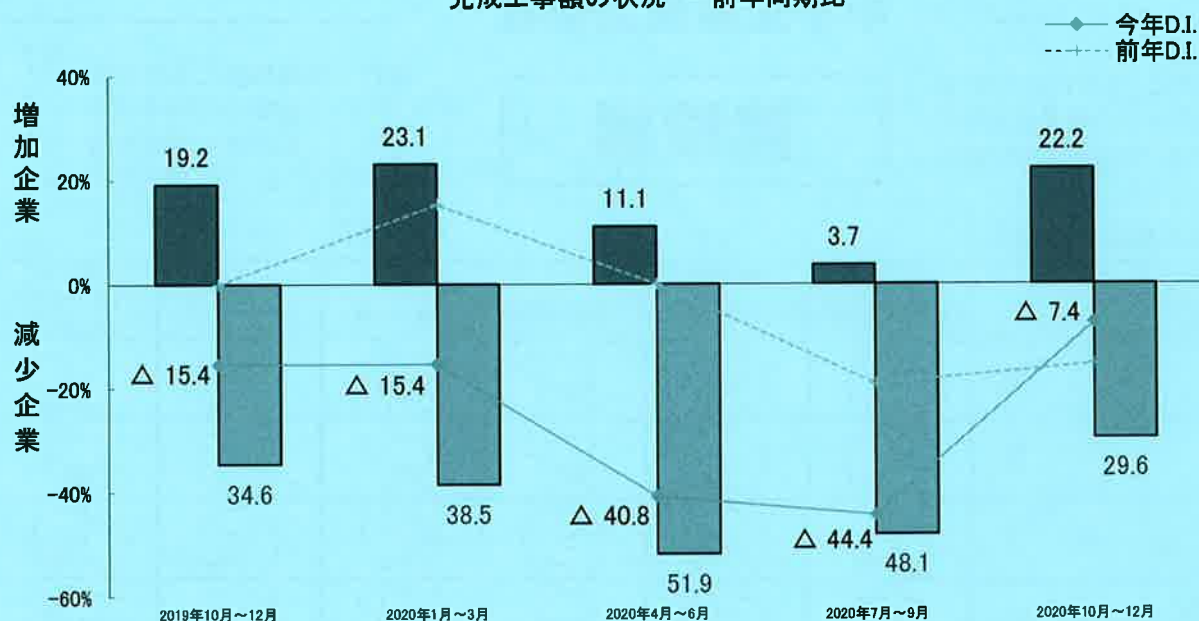
雨 D・I △50.1～△100

〔調査対象企業のコメント〕

製造業	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの拡大の影響で、注文が減少していている。 新型コロナウイルスとは長い付き合いになりそうなので、地道にウィズコロナ対策を考えていかないといけないと思う。 自社の強みでもあった機械に特化し、技術指導や経営戦略を変えた。 新型コロナウイルスの流行が拡大している様で、12月から需要が停滞すると予想される。秋は催事も多少できたのでよかったが、今後の見通しは不明である。 HACCP取り組みでも経費が上昇してきているのに新型コロナウイルスの対策でも経費が上昇。それに加え、働き方改革での人件費上昇で利益追及ができるわけないと思う。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 人員不足で、仕事件数と受注が減少すると思われる。 台風9号、10号の影響で、9月から緊急措置工事と台風被害の補修が90件弱あって、年内で消化できない状況である。その中に、追加工事、小規模リフォームが発生し、忙しい日々である。 コロナ禍の中、人材確保が難しく、工事受注機会があっても技術者不足で断念せざるを得ないことが多くなっている。先の事を見据えて判断していかなくてはならない。 新型コロナウイルスの影響で仕事が減少しており、業者間での価格競争がある。終息してどのくらい景気が回復するのか心配である。 9月以降、台風被害の工事以前より忙しかった。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> 長期借入れの手続きが終了できたので、末期の資金繰りが楽になった。今期は新型コロナウイルス対策をしっかり実施し、イベント出店などを積極的に行っていきたいと思う。 新型コロナウイルスの影響で、一部の商品の確保が困難なうえ、国内での不景気に加え、購買意欲が低下している。一方で、海外からの注文が若干増えたので、良くも悪くも保っている状態である。 新型コロナウイルス関連において様々な支援策が講じられていることで、販売数量の極端な落ち込みは抑えられている。ただ、基本的には、需要の停滞を感じている。 GOTOキャンペーンが始まり、人の移動が復活したように思う。行楽シーズンに活性化できたのは当店にもよい影響であるが、これから冬にかけてコロナ感染者の増加による人の移動の鈍化が心配。また自粛ムードに戻るのが怖い。 新型コロナウイルスとインフルエンザの感染に注意しなくてはならず、高齢者が多い地区での商売は、先が見通せず、仕入れ等に気を配り、ストレスを感じる事が多くなっている。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 平日の人出が少なく、土日も平日のように来客が少ない日が増した。ステイホームが浸透している。近所の商店も、早めの閉店が多くなってきた。年末はどうにか越せそうだが、新型コロナウイルスの終息までの見通しは暗い。 コロナ禍でも、感染予防対策をしながら、営業をしている。ようやく観光客数も、例年くらいにまで回復してきた。新型コロナウイルスとうまく付き合いながら、このままの状況を維持していけたらと願う。 お昼の仕出し類が好調。プレミアム商品券などの利用も多い。一方で、夜の宴会、大人数が少ない。12月の予約状況も入りが鈍い。繁忙期に入ってくるが、新型コロナウイルスによる影響がどの程度なのか見通しがつかない。 コロナ禍であるが、少しずつ売上は戻ってきている。しかし来店客数が減少しており、不安である。施策で売上は上がっているが、いつ止まるかもしれないため、来店数のアップ策を継続していく予定である。 少しずつ景気は回復してきていると感じている。しかし、団体客という点では、まだまだだと思ふ。新型コロナウイルスと付き合っ生活していかないといけない現実。早く普通に戻ってほしい。

①【建設業】売上の動向

完成工事額の状況 ー前年同期比

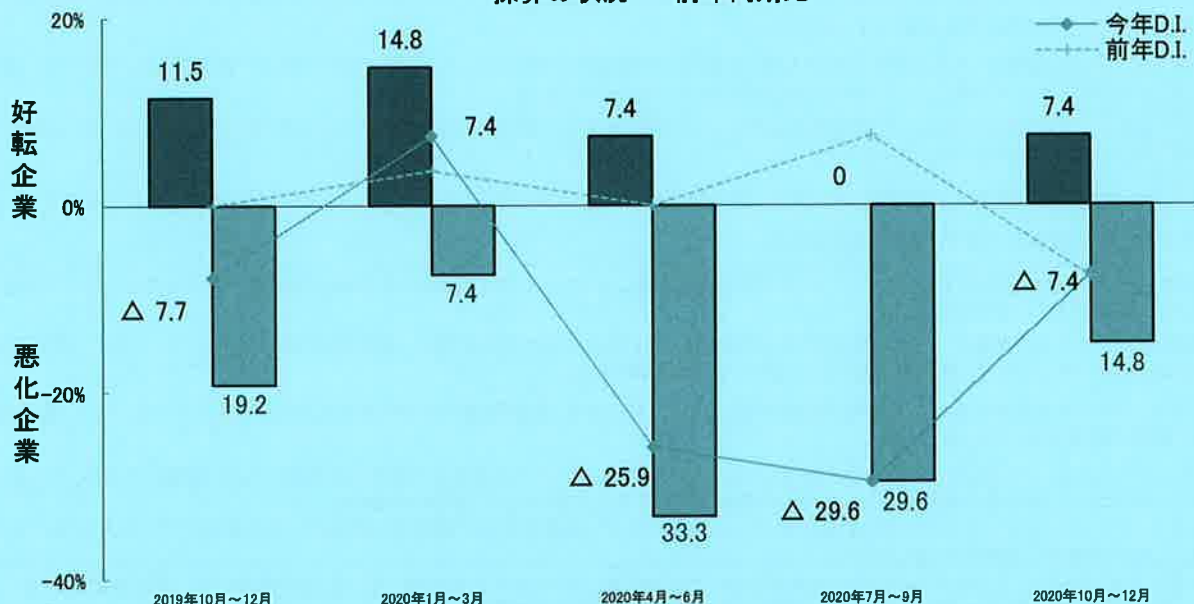


今期、売上が「増加した」と答えた企業は22.2%と、前期の3.7%から18.5ポイント増加した。また「減少した」と答えた企業は29.6%と、前期の48.1%から18.5ポイント減少した。したがって、今期D・I値は△7.4と、前期の△44.4から37.0ポイント改善した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は15.4%、減少すると予測した企業は34.6%で、これにより来期のD・I値は△19.2と、今期の△7.4から11.8ポイントの悪化を予測している。

②【建設業】採算の動向

採算の状況 ー前年同期比



今期、採算が「好転した」と答えた企業は7.4%で、前期の0.0%から7.4ポイント増加した。また、「悪化した」と答えた企業は14.8%で、前期の29.6%から14.8ポイント減少した。したがって、今期のD・I値は△7.4と、前期の△29.6から22.2ポイント改善した。

「来期の見通し」では、好転を予測した企業は4.0%、悪化を予測した企業は32.0%で、これにより来期のD・I値は△28.0で、今期の△7.4から20.6ポイントの悪化を予測している。

③【建設業】新規設備投資の状況

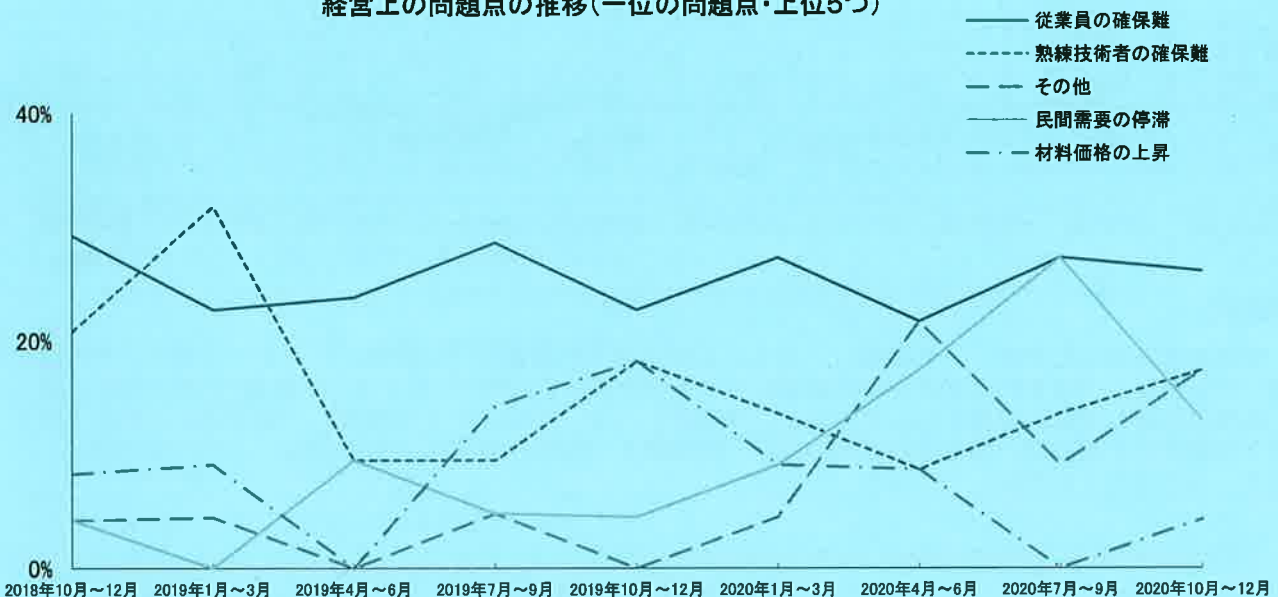
※投資内容は複数回答 (%)

項目 期	実施 して 計 画 る	土 地	建 物	建 設 機 械	車 両 ・ 運 搬 具	付 帯 施 設	O A 機 器	福 利 厚 生 施 設	そ の 他	実施 して い 計 画 ない
今 期 (2020年10~12 月)	11.1	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	88.9
来 期 (2021年1~3月)	7.4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	92.6

今期設備投資を行った企業は11.1%で、前期設備投資を行った企業(14.8%)を下回った。来期は7.4%が設備投資を計画している。

④【建設業】経営上の問題点

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



今期の経営上の問題点は、第1位は「従業員の確保難」で26.1%、第2位は「熟練技術者の確保難」「その他」で共に17.4%、第3位は「民間需要の停滞」で13.0%、第4位は「材料価格の上昇」で4.3%となっている。従業員の確保難が進む中で、熟練技術者の確保難が問題となっていることがうかがえる。

⑤【建設業】来期の見通し

売上(収入)額			採 算			資 金 繰 り			業 況		
2020年 7~9月期	2020年 10~12月期	2021年 1~3月期	2020年 7~9月期	2020年 10~12月期	2021年 1~3月期	2020年 7~9月期	2020年 10~12月期	2021年 1~3月期	2020年 7~9月期	2020年 10~12月期	2021年 1~3月期
△44.4	△7.4	△19.2	△29.6	△7.4	△28.0	△18.5	△7.4	△15.4	△37.0	△14.8	△34.7
傾向	↗	↘	傾向	↗	↘	傾向	↗	↘	傾向	↗	↘

(注) ↗ 増加・好転、→ 不変、↘ 減少・悪化を示す。

来期の見通しは、「売上(収入)額」「採算」「資金繰り」「業況」のすべての項目で悪化を示している。調査対象企業のコメントでは、9月以降、台風被害の工事による受注が多くあった一方で、新型コロナウイルス感染拡大により、仕事の減少や人材確保難が発生しており、先行きに不安を感じる声も多い。

景況概要

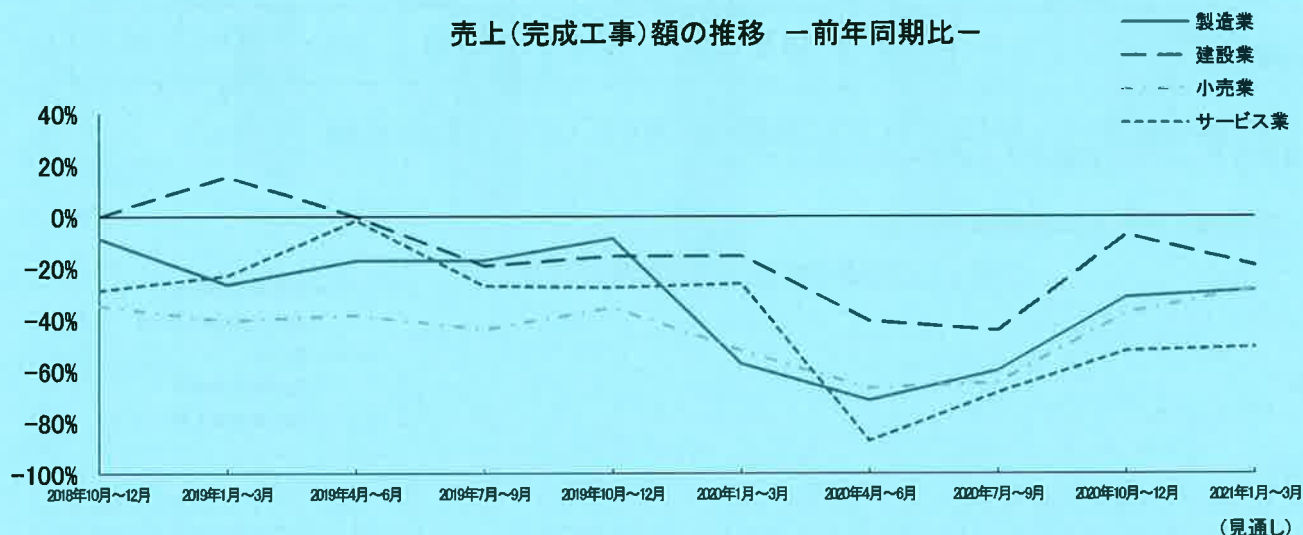
長崎県の全産業

【売上】

今期改善を示したのは、「製造業」（28.5ポイントの改善）「建設業」（37.0ポイントの改善）「小売業」（27.1ポイントの改善）「サービス業」（16.2ポイントの改善）であった。

来期の見通しでは、改善を示したのは、「製造業」（2.9ポイントの改善）「小売業」（9.8ポイントの改善）「サービス業」（1.5ポイントの改善）であった。悪化を示したのは、「建設業」（11.8ポイントの悪化）であった。

売上(完成工事)額の推移 -前年同期比-

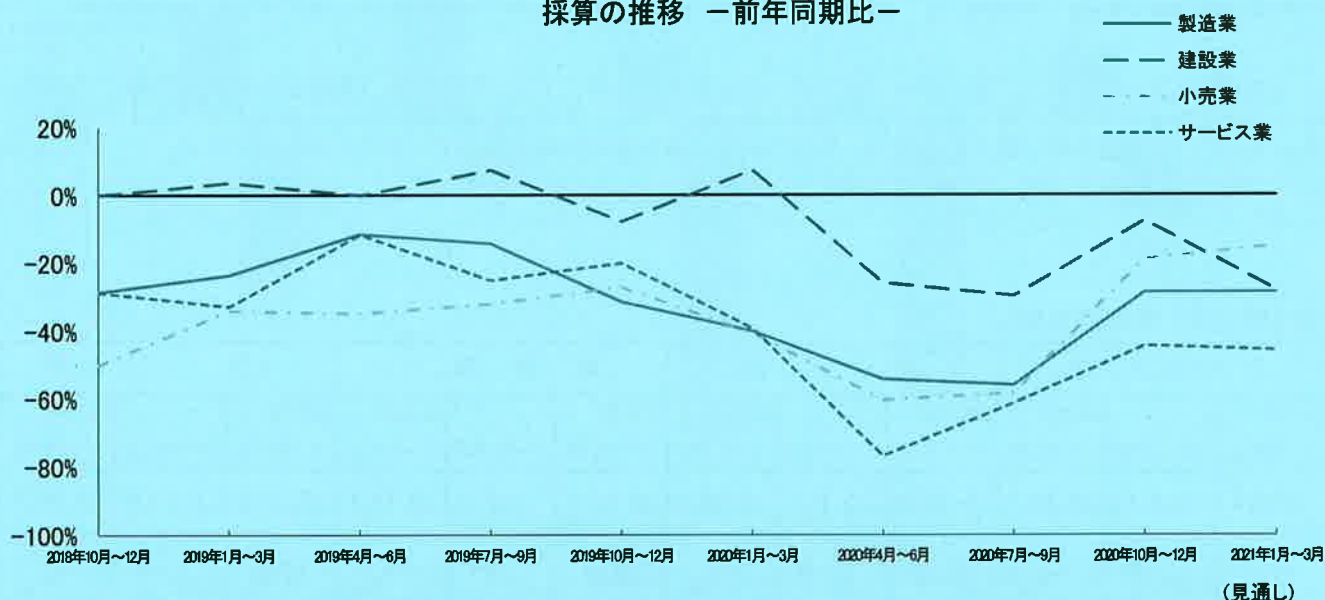


【採算】

今期改善を示したのは、「製造業」（27.4ポイントの改善）「建設業」（22.2ポイントの改善）「小売業」（39.6ポイントの改善）「サービス業」（16.9ポイントの改善）であった。

来期の見通しでは、改善を示したのは、「小売業」（3.8ポイントの改善）「製造業」（0.1ポイントの改善）であった。悪化を示したのは、「建設業」（20.6ポイントの悪化）「サービス業」（1.3ポイントの悪化）であった。

採算の推移 -前年同期比-



【注】本レポートの中で「D・I」とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。